

燕市都市計画マスタープラン 策定委員会 (第4回 会議資料)

場所 燕市市民交流センター
日時 令和4年8月3日(水)
10時00分～

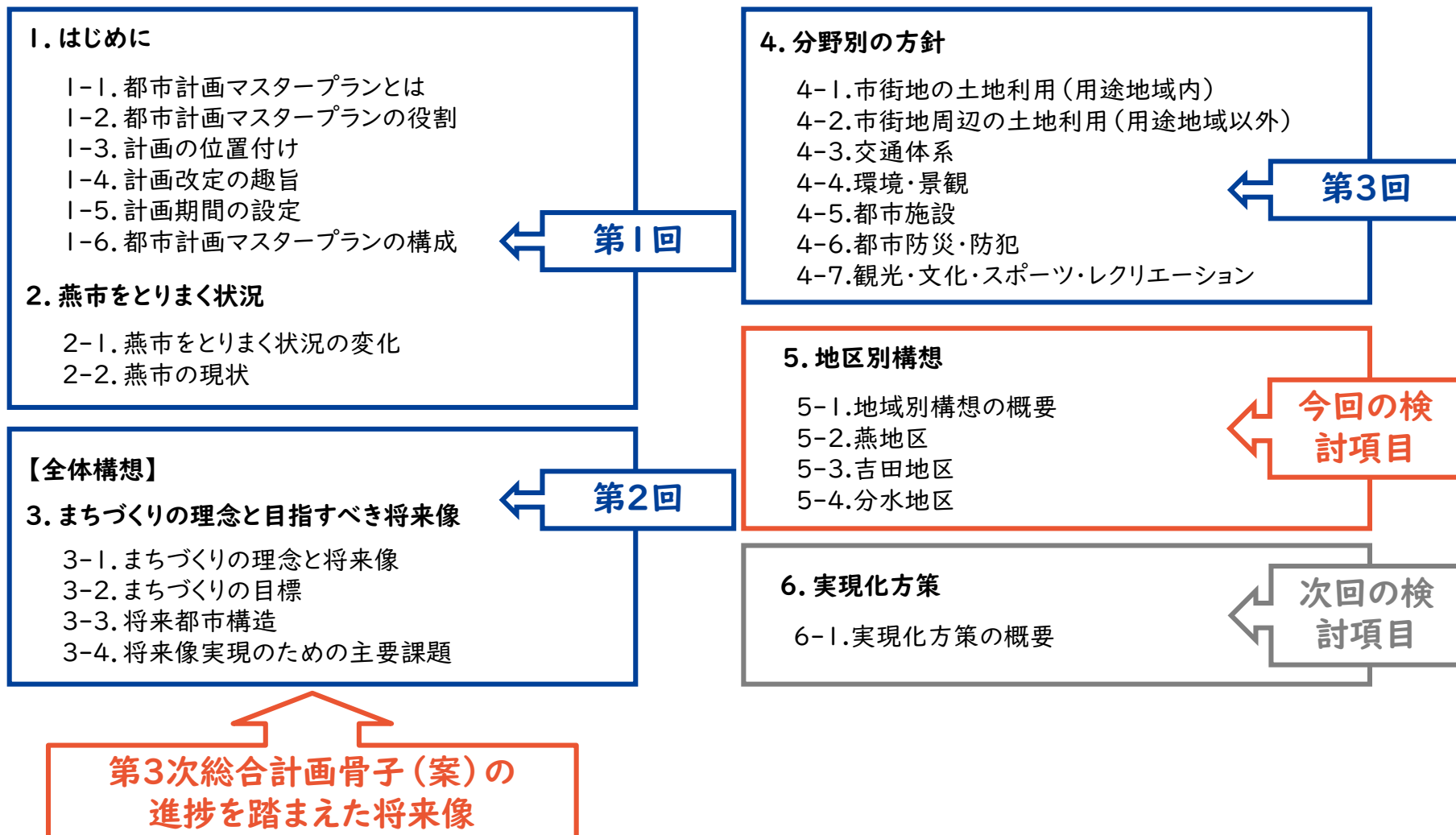
燕市 都市計画課

目 次

1. 昨年度のふりかえり・今年度の予定	P3
2. 地区別構想(案)	
2-1地区別構想の概要	P7
2-2燕地区	P8
2-3吉田地区	P16
2-4分水地区	P24

1. 昨年度のふりかえり・今年度の予定

(1) 都市計画マスタープランの構成



1. 昨年度のふりかえり・今年度の予定

(2) 昨年度のまとめに対する主な意見

	策定委員会の意見
1	(横山委員) 田園エリアや産業拠点の調和を図りながら都市が発展していけば益々人々が輝くまちになると思う。農業・産業・観光が共生する都市は実現できると思う。 ⇒(事務局対応) まちづくり方針への反映を検討する。
2	(樋口委員) 道の駅国上の明確な位置づけがあると良い。 吉田で計画中の卸売市場周辺を「賑わい交流ゾーン」に位置付けても良いのではないかな。 燕市は建物が密集している地域が多数あるため、延焼を防止する対策が望まれる。 ⇒(事務局対応) 位置づけを追加する。
3	(本田委員) スワロー号・きららん号の運行時間の改善。歩行者・自転車の利用環境改善。観光・文化・スポーツ・レクリエーション方針図に桜並木を位置づけてはどうか。 ⇒(事務局対応) まちづくり方針への反映を検討する。

	都市計画審議会の意見
1	(小林委員) 吉田地区は鉄道駅が4駅あり、人・車ともに拠点となる駅周辺の接続性が高い。また、燕・弥彦圏域の地理的中心にあり、市役所周辺は公共施設の集約による都市のコンパクト化が合併当初に計画されていたことから、地理的優位性や重要性を活かす考え方を本計画に盛り込むべきではないか。 ⇒(事務局対応) 地区別構想において検討する。
2	(池田委員) 空き家対策が全国で問題になっており、本市においても対策を早めに進めた方が良いのではないかな。 ⇒(事務局対応) 空き家対策に関する記載を検討する。

1. 昨年度のふりかえり・今年度の予定

(3) 策定スケジュール

日程(予定)		委員会等	案件等
R4年	7月12日	第4回 庁内検討委員会	● 地域別構想の検討
	8月3日	第4回 策定委員会	
	9月	第5回 庁内検討委員会	● 実現化方策の検討 ● 都市計画マスタープラン(素案)作成
	10月	第5回 策定委員会	
	12月	市議会	● 都市計画マスタープラン(素案)説明
R5年	1月	都市計画審議会	
	2月	パブリックコメント	● 都市計画マスタープラン(素案)公表
	3月	都市計画審議会	● 都市計画マスタープラン(原案)報告

1. 昨年度のふりかえり・今年度の予定

■第3次総合計画の策定状況

【施策共通の新たな視点を取り入れた効率的な取組】

計画の期間

令和12年度までの8年間を計画期間として定めます。

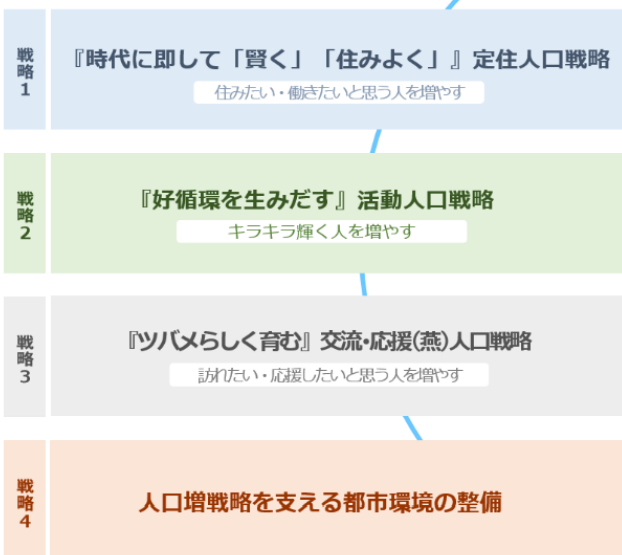
燕市を取り巻く社会潮流と課題

- ① 急速な人口減少と少子高齢化の進行
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大
- ③ DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展
- ④ コロナ禍を契機とした地方分散型社会への移行
- ⑤ 激甚化する自然災害への懸念
- ⑥ カーボンニュートラルに向けた動きの活発化
- ⑦ 多様性を認めあう共生社会の実現に向けた社会の変化
- ⑧ グローバルリスクの顕在化

本市の将来像

人と自然と産業が調和しながら進化する燕市
～「日本一輝いているまち」を目指して～

基本的方向（政策体系）



新たな4つの視点

- ① デジタル社会の推進
- ② 分散型社会に対応した活力ある地域社会の実現
- ③ カーボンニュートラル社会の推進
- ④ 多様性を認めあう共生社会の実現

資料：第3次燕市総合計画骨子（案）

都市計画マスタープランとの整合を図る

2. 地区別構想(案)

2-1 地区別構想の概要

- 地区別構想は、全体構想で示したまちづくりの方針を基に、各地区の特性を踏まえ、地区の将来像の実現に向けた取り組みを示すものです。
- 都市のコンパクト化により都市機能の集約を進めており、各地区の中心拠点を核とした地区づくりを行うため、燕・吉田・分水の3地区を対象とします。

現計画

- ・燕北地区
- ・燕中央地区
- ・燕西地区
- ・燕第一地区
- ・燕第二地区
- ・吉田北地区
- ・吉田地区
- ・吉田南地区
- ・粟生津地区
- ・四箇村地区
- ・島上地区
- ・分水北地区
- ・分水小地区

見直しの視点

- ・都市のコンパクト化により都市機能の集約を進めており、各地区の中心拠点を核とした地区づくりを行うため、地区の区分を見直す

新計画

- ・燕地区
- ・吉田地区
- ・分水地区



2. 地区別構想(案)

2-2 燕地区

(1) 地区の概況

・総人口: 41,315人(令和2年国勢調査)
 ・世帯数: 15,650世帯(令和2年国勢調査)
 ・面積: 39.27km²

- ・JR上越新幹線燕三条駅及び北陸自動車道三条燕ICの開発により形成された市街地と、JR燕駅周辺の市街地があります。
- ・JR上越新幹線燕三条駅周辺には、大規模な小売店舗などが立ち並び、商業・業務集積地があります。
- ・本町、穀町、宮町、仲町などには商店街があり、人口減少や空き店舗の増加などにより地域コミュニティや賑わいの衰退が見られますが、近年、宮町商店街では移住者等による新たなコミュニティの形成や個性のある店舗の出店が進んでいます。
- ・大曲において全天候型子ども遊戯施設の計画があり、周辺の公園や文化施設等と一体となった賑わい形成が期待されます。
- ・火災による延焼の防止を図るため、準防火地域のほか建築基準法22条指定区域が広範に指定されています。
- ・小池工業団地、小関工業団地、物流センター等の工業団地周辺に、工業流通機能の充実を図った工業集積が見られます。
- ・古くから地場産業が盛んで、市街地周辺の中ノロ川沿い及び燕西地区には、工場等と住居が混在する地域があります。
- ・燕北地区には集落と大規模な住宅団地、その周辺に広がる優良な農地があります。
- ・国道289号「八十里越」の開通により、さらなる広域的な地域間交流や連携の拡大が期待されます。

●人口

- ・人口が減少しており、少子高齢化が進んでいます。
- ・世帯数は微増傾向にあります。
- ・人口減少率は市全体の減少率を下回ります。
- ・秋葉町、水道町、井土巻、東町などでは人口が増加している地区もみられます。
- ・将来人口は34,099人(令和22年)と推計されます。

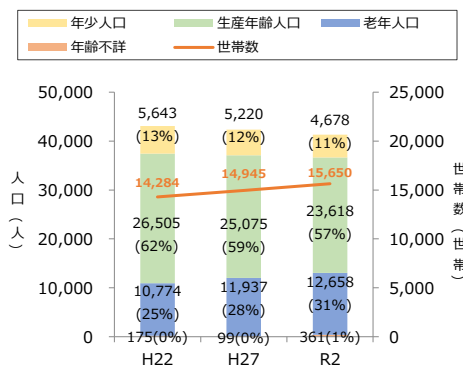


図. 人口、世帯数の推移
 (資料: 国勢調査)

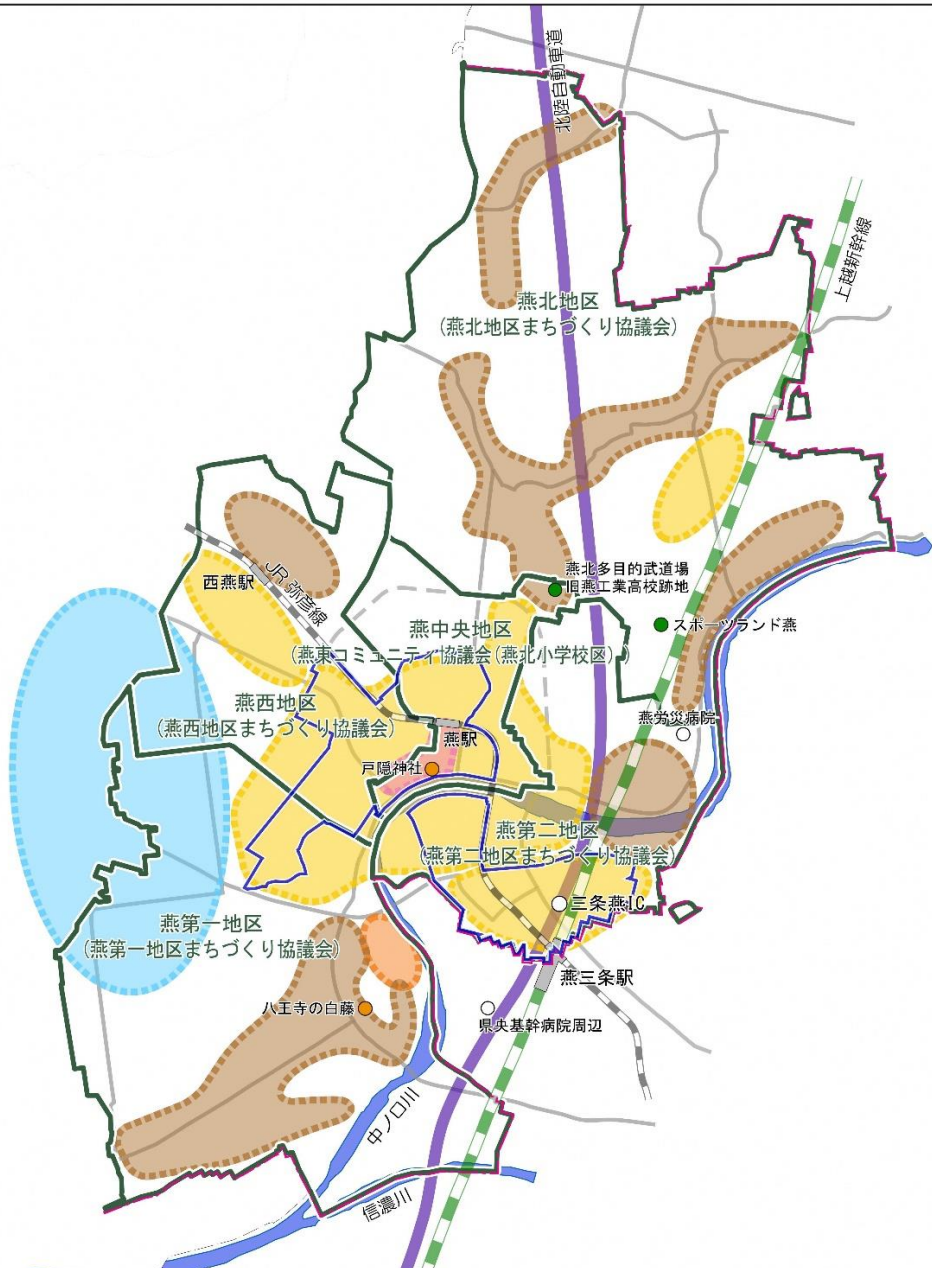
●市民意向調査

- ・交通安全対策について、松長小学校区は他校区に比べて満足度指数が低い傾向があります。
- ・道路網の整備について、大関小学校区、燕東小学校区は他校区に比べて満足度指数が低い傾向があります。一方で、松長小学校区においては満足度指数が他校区と比べて高い傾向があります。
- ・小池中学校区(小池、大関小学校区)では他校区に比べ「市街地を中心とした「まちなか」に商業施設や生活関連施設(行政窓口、子育て施設、医療、福祉等)を誘導したり、駐車場を整備したりする」が少なく、「三条燕ICや上越新幹線の燕三条駅周辺へ店舗を誘導する」が多い傾向があります。
- ・燕北中学校区(小中川、松長小学校区)では他校区に比べ「新たに工業団地を整備して、企業立地を積極的に進める」が少ない傾向があります。

(1) 燕地区の概況

現 況 図

500m 0 500 1000 1500



<エリア>		<区域>	
工業団地		まちづくり協議会	
商店街		居住誘導区域	
市街地		都市計画区域	
農地に囲まれた集落			
全天候型子ども遊戯施設の整備計画地区			
<施設>		<鉄道・幹線道路>	
歴史・文化		新幹線	
公園		在来線	
その他		高速自動車道	
		国道・県道	

3. 地区別構想(案)

(2) 燕地区の将来像

ものづくり産業が発展し多様な人々が行き交うまち
～産業と居住の調和が取れた暮らし～

(3) 燕地区の課題

ものづくり産業のさらなる発展

- ・後継者不足等による地場産業の衰退が進む中、人材の育成や新たな就業の場を確保し、交通の利便性を活かした生産物流拠点の強化が必要です。
- ・小池工業団地南側を中心とする隣接地は、農業政策との調整を図りながら工業や物流産業のさらなる発展を図る必要があります。
- ・工場と住宅地の混在による環境悪化の恐れがある地域は、周辺環境と調和した居住環境の形成が必要です。

市の玄関口としての賑わい形成

- ・JR燕駅周辺の商店街の空き店舗対策ならびに集客力の向上による、賑わいづくりが必要です。
- ・隣接する三条市で整備が進んでいる県央基幹病院及び周辺の大学や商業施設の利用者、働く人、学生、通院等の人流の変化に対応した拠点づくりが必要です。
- ・全天候型子ども遊戯施設整備を見据え、周辺施設と連携した新たな賑わい創出が必要です。
- ・国道289号、国道289号燕北バイパスの沿道は、既に個別単体の開発が見られることから周辺への配慮が必要です。

安全・安心な居住環境の充実

- ・中心市街地は道路が狭く、木造建築物が密集しているだけでなく、工場の混在する地域もあり、大火となる危険性が高い状況にあるため、地震や火災に強い都市基盤の構築が必要です。

地域資源の保全と活用

- ・伝統工芸の鋳起銅器や八王寺の白藤、戸隠神社等の歴史・文化資源は地区の大きな魅力として、まちづくりに活かしていくことが重要です。
- ・特産物を有する農業や緑豊かな田園と集落の景観は、地区の生活環境や広域的交流の重要な資源であり、田園環境の管理・保全とまちづくりへの活用が必要です。

既存施設等の利活用

- ・燕労災病院や旧燕工業高校の跡地の有効活用やスポーツランド燕の一層の利活用など、地域の活性化に繋がる施設整備が求められています。

2. 地区別構想(案)

(4) 燕地区のまちづくりの方針

○現都市計画マスタープランで挙げられている地区別の実現化の取り組みに対し、現計画策定時からの変化をふまえ、次期計画における地区のまちづくり方針(案)を検討

これまでの 方向性

【実現のための
取り組み】

- 誰もが快適で安全安心に暮らせる生活環境整備
 - 安全安心な居住空間、歩行空間の確保
 - 医療・福祉施設周辺の計画的な土地利用
 - 身近な公園整備による魅力ある住宅地の形成
 - 公共交通の利便性向上。鉄道駅の交通結節点の機能の強化
 - 高齢者などに配慮した商業機能やコミュニティ機能の充実。まちなか居住の推進
- 地域・地区連携を支える骨格軸の強化
 - 道路の整備による地区の骨格形成
 - 国道289号沿道の土地利用を含めた整備促進
- 地区固有の資源を活かしたまちづくり
 - 地区の伝統文化や文化財の保存・活用、歴史・文化の継承
 - 中ノロ川の自然環境や田園風景の保全・活用
 - 既存レクリエーション機能の充実
 - 工業団地のアクセス性の向上。工業団地内の低未利用地の解消・利活用
- 広域交流拠点・行政拠点の形成
 - 交通結節点の機能の強化
 - 求心性の向上や賑わいを創出するための施設整備
 - 水害に強いまちづくり

見直しの視点

【社会情勢の変動
予想される変化】

- 産業拠点の拡充
 - ・さらなる産業の発展のため、開発需要に応じた効率的な基盤整備を図る。
- 公共交通や歩行空間等、移動の利便性向上
 - ・公共交通によるネットワークが形成され、都市機能が集約された拠点にアクセス可能なコンパクトシティを形成する。
 - ・駅周辺等の拠点内は、安全・安心な歩行空間の確保を図る。
- 県央基幹病院等周辺再開発への対応
 - ・県央基幹病院の開院等に伴う人流の変化を想定したインフラ整備を図る。
- 全天候型子ども遊戯施設を見据えた対応
 - ・周辺施設と連携し新たな賑わい創出を図る。
- 既存施設の老朽化
 - ・公共施設の統廃合を含めた施設の更新や適切な維持・管理を行う。

これからの まちづくり 方針(案)

1. ものづくり産業の拡充と多様な交流を育む拠点づくり

- 小池工業団地等産業拠点の拡充
- 大曲における新たな賑わい交流拠点の形成
- 商業・業務拠点の拠点性強化

2. 広域交通の利便性を活かしたネットワーク形成

- 交通拠点における拠点性向上
- 国道289号等における地域連携軸の強化
- 過度に自動車に依存しない都市交通の実現

3. 住みたくなる魅力的な居住環境づくり

- 立地適正化計画によるまちなか居住促進
- 中心市街地等の商店街の活性化
- 市街地等における住宅と混在する工場の解消
- 田園集落のゆとりある住環境の保全

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

- 地場産業のブランド強化と金属加工産地の発展
- 伝統産業を伝える歴史文化資源の保全と活用
- 既存公園・スポーツ施設の活用と市民の健康増進

5. 安全・安心なまちづくり

- 市街地等の防災性向上
- 安全・安心な移動空間の確保

2. 地区別構想（案）

（4）燕地区のまちづくりの方針

1. ものづくり産業の拡充と多様な交流を育む拠点づくり

●小池工業団地等産業拠点の拡充

- ・大規模な工業地や産業物流拠点の開発需要に応じた効率的な基盤整備などを推進します。
- ・効率的な物流経路の確保のため、小池工業団地南側へのアクセス道路の整備を検討します。
- ・工業系用途地域内の農地等の低・未利用地の解消を図ります。

●大曲における新たな賑わい交流拠点の形成

- ・全天候型子ども遊戯施設の整備に伴い、産業史料館等の周辺施設との連携を考慮した基盤整備を検討します。
- ・堤防の整備状況や整備に伴う河川区域への影響、周辺の開発需要の動向等の諸条件を見極めながら、土地利用を検討します。

●商業・業務拠点の拠点性強化

- ・燕三条駅周辺の地域は、交通結節機能拡充の他、商業・業務機能のより一層の集積を図ります。また、須頃郷第1号公園においては民間のノウハウを活用したPark-PFIによる地域の活力創出を図ります。
- ・テレワーク拠点・イノベーション拠点等オフィスの進出や、広域的な商業・業務機能の集積を促進します。

2. 広域交通の利便性を活かしたネットワーク形成

●交通結節点における拠点性向上

- ・JR上越新幹線燕三条駅や北陸自動車道三条燕IC近くの高速バス停留所周辺では、井土巻高速バス乗場駐車場や民間駐車場の活用、商業施設との連携等により、パークアンドライド施設の拡充を検討するとともに、バス停・待合所整備、アクセス改善等乗換の利便性向上を図ります。
- ・JR燕駅は、鉄道とバスの接続や運行の改善、バリアフリー化などによる交通結節点の機能強化を検討します。また、安全・安心で快適に移動可能な歩行空間を形成し、高齢者の外出機会の増加や市民の健康づくり等を促進します。

●国道289号等における地域連携軸の強化

- ・国道289号はバイパス整備等により、交通を分散し渋滞解消を図るとともに、道路交通等周辺への影響を考慮した市街化を検討します。
- ・主要な幹線道路の整備により吉田地区及び、分水地区、主要な拠点へのアクセス性の向上を促し、人流・物流の活性化、企業立地の促進、産業の振興を図ります。
- ・国道289号燕北バイパス沿線は、朝日大橋開通による三条燕ICへの良好なアクセス性等から開発機運が高まることが予想されることから、沿線開発による生活行動や経済活動の変化などの広域的な影響や用途地域内の開発状況を踏まえ、無秩序な開発を抑制しつつ適地への土地利用の誘導を図ります。

●過度に自動車に依存しない都市交通の実現

- ・交通弱者等の交通手段を持続的に確保するとともに、利便性の高い公共交通を提供することにより、市民の外出意欲を向上させ、さらなる賑わいの創出につなげていきます。
- ・燕労災病院跡地の活用や県央基幹病院の開院、全天候型子ども遊戯施設の整備等の交通需要の変化に伴う公共交通ネットワークの見直しを図ります。

2. 地区別構想（案）

（4）燕地区のまちづくりの方針

3. 住みたくなる魅力的な居住環境づくり

●立地適正化計画によるまちなかの居住促進

- ・JR燕駅周辺の都市機能の集積したエリアでは、空き家等が土地利用の障害になっている場合がある一方で、白山町において、空き家跡地を面的に開発分譲した実績もみられることから、空き家跡地の活用支援やまちなか居住支援などインセンティブの付与により居住誘導を図ります。
- ・水道町・秋葉町・井土巻など居住誘導区域で、かつ住居系用途地域内の比較的ゆとりある良好な居住環境が確保できる地域では、宅地分譲が進んでいることから、引き続きその立地性を生かした居住誘導を図ります。
- ・JR燕駅周辺及び国道289号沿道の日常的な買い物や生活に必要な施設が立地するエリアにおいて、都市機能増進施設※の維持とさらなる立地誘導を図ります。

●中心市街地等の商店街の活性化

- ・移住者や若者と協働で取り組むイベント開催など商店街の活性化を支援するとともに、空き家や空き店舗の活用を支援します。
- ・民間団体による空き店舗や空き地の活用やマルシェ等のイベントの開催を民・官一体で取り組むことで、個性豊かな賑わいの創出や持続可能な商業・企業活動につなげ、周辺地域に広めていくことを目指します。

●市街地等における住宅と混在する工場の解消

- ・住居と工場の混在状況を勘案しながら特別工業地区指定の見直しを適宜、検討します。

●田園集落のゆとりある住環境の保全

- ・燕北地区に位置する集落と周辺農地は、公共交通の確保により地域の生活環境やコミュニティの維持を図ります。
- ・収穫体験や観光農園、直売所等の農地の観光利用を検討します。
- ・市街地周辺は、適切な開発の規制、誘導を行い、土地利用の混在や環境悪化のおそれのある土地利用を抑制し、周辺農地と調和した良好な居住環境の維持・形成を図ります。

※都市機能増進施設：医療施設、福祉施設、商業施設その他都市の居住者の共同の福祉や利便のため必要な施設

2. 地区別構想（案）

（4）燕地区のまちづくりの方針

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

●地場産業のブランド強化と金属加工産地の発展

- ・観光資源や地域産業のPRをより一層進めるとともに、オープンファクトリーや産業史料館などの産業観光資源を活かした回遊ルートや、観光受け入れ態勢の支援策を検討します。
- ・地場産業や歴史文化等、地域の魅力について情報発信し、地域資源を活用した交流・応援（燕）人口の増加を通じ、移住・定住の拡大を図ります。

●伝統産業を伝える歴史文化資源の保全と活用

- ・伝統工芸の鋳起銅器や天然記念物の八王寺の白藤、戸隠神社等、地区に点在する歴史的・文化的資源や景観の保存、継承の方策とそのための仕組みづくりを地区住民とともに検討します。
- ・戸隠神社祭礼・飛燕夏まつり等の地区に伝わる伝統やまつり、それらを継続するための組織などの活動を支援します。
- ・市のシンボルとなっている水道の塔（旧浄水場配水塔）は歴史的景観を有する文化財として施設の保存・活用を図ります。

●既存公園・スポーツ施設の活用と市民の健康増進

- ・健康づくりや交流の場として、スポーツランド燕、大曲河川公園をはじめとした広場、運動場などの適切な管理を図ります。また、オープンスペースの活用を考慮した身近な公園・緑地の管理や改良を地区住民と協働で取り組むとともに、市民の健康増進・外出機会の創出のために歩きたくなる歩行環境の整備を検討します。

5. 安全・安心なまちづくり

●市街地等の防災性向上

- ・狭隘道路の拡幅を伴う再編分譲に対する支援により、まちなかでの分譲を促進し、オープンスペースの確保や密集市街地の改善を図ります。
- ・浸水リスクの高い地域の避難誘導活動に資する防災拠点の機能充実と「地域防災計画」に沿った避難場所の指定と事前周知を図ります。
- ・洪水・土砂災害ハザードマップなど、避難に役立つ情報発信により、住民の防災意識の醸成を図ります。

●安全・安心な移動空間の確保

- ・事故のない安全・安心な歩行空間の確保のため、通学路を中心とした歩道の整備を進めます。
- ・バイパス等の整備促進により、生活道路への大型車等の交通量減少を図ります。

(4) 燕地区のまちづくりの方針

まちづくり方針図

500m 0 500 1000 1500



●国道289号等における地域連携の強化

●過度に自動車に依存しない都市交通の実現

 ●立地適正化計画によるまちなか居住促進
 ●中心市街地等の商店街の活性化

●田園集落のゆとりある住環境の保全

●国道289号等における地域連携の強化

●市街地等における住宅と混在する工場の解消

●小池工業団地等産業拠点の拡充

●小池工業団地等産業拠点のアクセス性向上

●田園集落のゆとりある住環境の保全

●田園集落のゆとりある住環境の保全

 ●地場産業のブランド強化と金属加工産地の発展
 ●伝統産業を伝える歴史文化資源の保全と活用
 ●既存公園・スポーツ施設の活用と市民の健康の増進
 ●地域の魅力の向上

 ●市街地等の防災性向上
 ●安全・安心な移動空間の確保

【まちづくりの方針】

①ものづくり産業の拡充と多様な交流を育む拠点づくり

②広域交通の利便性を活かしたネットワーク形成

③住みよくなる魅力的な居住環境づくり

④歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

⑤安全・安心なまちづくり

<ゾーン>		<鉄道・幹線道路>	
工業・流通ゾーン		新幹線	
産業核補ゾーン		在来線	
賑わい交流ゾーン		高速自動車道	
商業・業務ゾーン		広域幹線道路	
まちなか居住ゾーン		幹線道路	
ゆとり居住ゾーン		補助幹線道路	
田園集落ゾーン		<河川>	
農業ゾーン		主要河川	
自然ゾーン		<施設>	
<拠点>		教育施設	
広域連携拠点		公民館	
賑わい交流拠点		歴史・文化	
生活拠点			

●交通拠点における拠点性向上

●商業・業務拠点の拠点性強化

●立地適正化計画によるまちなか居住促進

●大曲における新たな賑わい交流拠点の形成

西燕駅

R289燕北バイパス

燕駅

三條燕IC

燕三條駅

中ノ川

信濃川

R8

上越新幹線

北陸自動車道

2. 地区別構想(案)

2-3 吉田地区

(1) 地区の概況

・総人口:22,840人(令和2年国勢調査)
 ・世帯数:8,386世帯(令和2年国勢調査)
 ・面積:32.00km²

- ・JR越後線の駅周辺や国道116号沿い及び西川沿いを軸に街が形成されています。
- ・行政サービス拠点である市役所庁舎と医療拠点である県立吉田病院が立地しています。
- ・国道116号や国道289号、JR越後線やJR弥彦線がそれぞれ交差して整備されています。
- ・市街地中心部の商店街では、人口減少や空き店舗の増加などにより地域コミュニティや賑わいの衰退が見られますが、近年、いちび通り商店街では、若者等による賑わいの創出が進んでいます。
- ・市街地中心部のほか、国道116号沿いに商業施設が立地しています。
- ・産業拠点として位置付けられた工業集積の一部が吉田地区に立地しています。また、国道116号沿いに工業団地が立地しています。
- ・国道116号吉田バイパスが事業化され、渋滞の解消が期待されています。
- ・吉田北地区及び粟生津地区の集落周辺には、ほ場整備等により営農条件の優れた農地が広がっています。
- ・吉田南地区に卸売市場が移転され、周辺の賑わいの増加が期待されています。
- ・国道289号「八十里越」の開通により、観光分野等におけるさらなる広域的な地域間交流や連携の拡大が期待されます。

●人口

- ・人口が減少しており、少子高齢化が進んでいます。
- ・世帯数は微増傾向にあります。
- ・人口減少率は市全体の減少率を若干下回ります。
- ・吉田東町、吉田西太田などでは人口が増加している地区もみられます。
- ・将来人口は19,049人(令和22年)と推計されます。

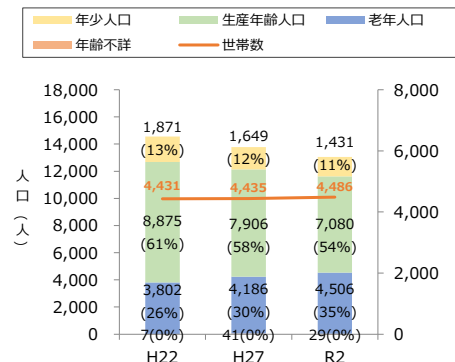


図. 人口、世帯数の推移
 (資料:国勢調査)

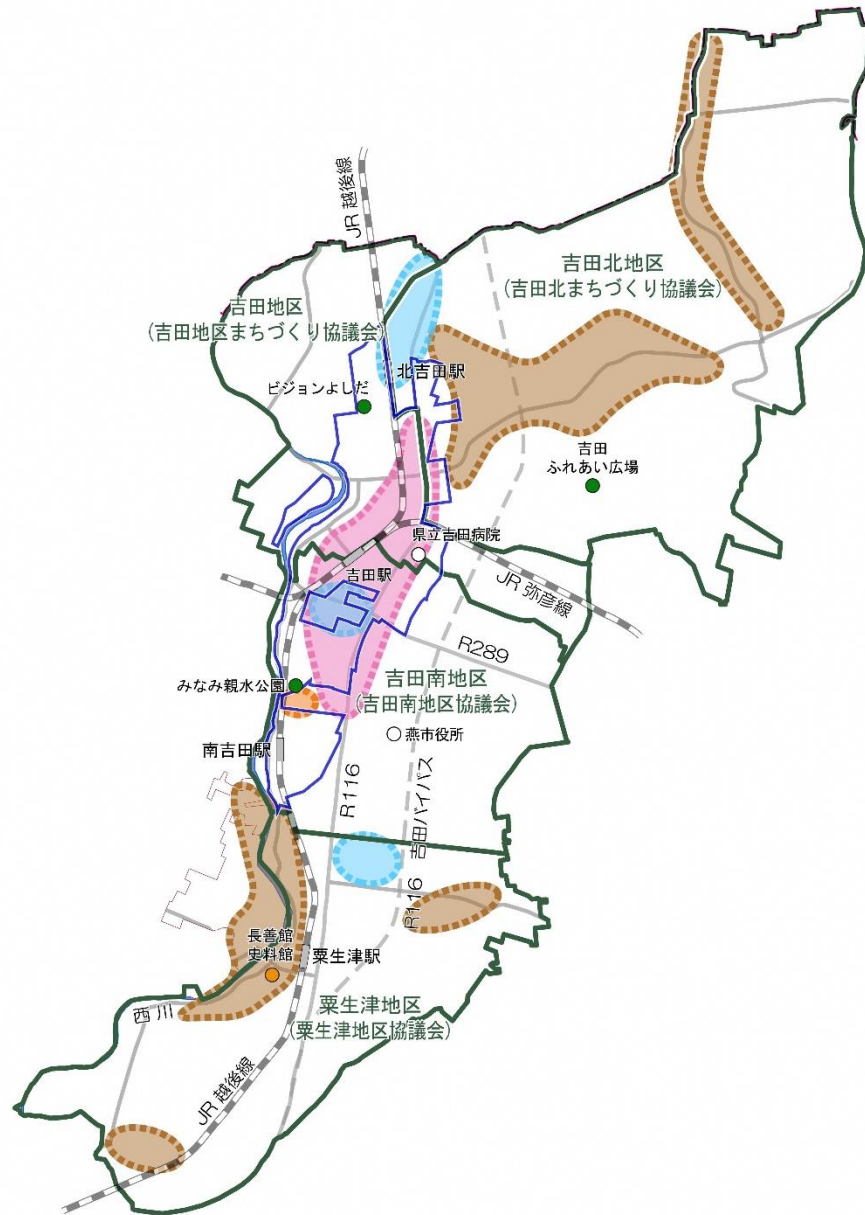
●市民意向調査

- ・交通安全対策について、吉田北小学校区は他校区に比べて満足度指数が低く、一方で、吉田南小学校区は満足度指数が他校区と比べて高い傾向があります。
- ・道路網の整備について、吉田南小学校区は満足度指数が他校区と比べて高い傾向があります。
- ・「商業地」に関する大切な取り組みについて、「幹線道路沿いへの大型店舗誘導」が比較的多い傾向があります。

(1) 吉田地区の概況

現況図

500m 0 500 1000 1500



<エリア>		<区域>	
産業団地		まちづくり協議会	
JR吉田駅及び国道116号の商業施設が立地する市街地		居住誘導区域	
農地に囲まれた集落		都市計画区域	
卸売市場の計画			
<施設>		<鉄道・幹線道路>	
歴史・文化		在来線	
公園		国道・県道	
その他			

2. 地区別構想(案)

(2) 吉田地区の将来像

良好な交通アクセスと都市機能の集積による住みやすいまち
～地理的ポテンシャルを活かした質の高い暮らし～

(3) 吉田地区の課題

賑わいのある市街地の形成

- ・JR吉田駅周辺の市街地の商店街は、空き店舗の増加等により活力が低下していますが、近年、新たな出店やイベント開催など活性化が見られます。今後、空き店舗対策や集客力の向上による活性化が必要です。
- ・市街地に集積する市役所庁舎・県立吉田病院、学校、商業施設や都市施設等を快適に利用することができるよう、歩行空間のバリアフリー化等が求められています。

拠点の活用による魅力増進

- ・国道116号吉田バイパスの整備を推進するとともに、市役所周辺への行政機能や日常的な買い物や生活に必要な施設等の集積が求められます。
- ・行政拠点や医療拠点、JR吉田駅等を中心とした拠点の形成は、燕地区や分水地区との連携を強化し、アクセス性の向上や生活環境の利便性を向上するため、JR吉田駅における、コミュニティバスや自動車との乗り継ぎ機能の強化が必要です。
- ・卸売市場が新築移転する吉田南地区において、周辺を含めた賑わい創出のため、計画的な土地利用が必要です。

安全・安心な居住環境の充実

- ・JR吉田駅周辺等の中心市街地や国道116号沿いの商業系用途地域に準防火地域の指定を行っていますが、中心市街地では、防火地域指定前の建築物や空き家が多く存在していることから、地震や火災に強い都市基盤の構築が必要です。

地域資源の保全と活用

- ・吉田北地区及び粟生津地区等、ほ場整備による営農条件の良好な生産環境を維持するとともに耕作放棄地の増加抑制が必要です。
- ・長善館史料館や香林堂など歴史・文化資源が多数存在しています。これらの歴史・文化資源は地区の大きな魅力として、まちづくりに活かしていくことが重要です。
- ・吉田ふれあい広場やビジョンよしだなどの公園や運動施設は、市民の健康増進のため、機能の拡充と利便性の向上が必要です。

2. 地区別構想(案)

(4) 吉田地区のまちづくりの方針

○現都市計画マスタープランで挙げられている地区別の実現化の取り組みに対し、現計画策定時からの変化をふまえ、次期計画における地区のまちづくり方針(案)を検討

これまでの 方向性

【実現のための
取り組み】

- 広域交流拠点・行政拠点の形成
 - 新庁舎周辺の行政サービス拠点の形成
- 誰もが快適で安全安心に暮らせる生活環境整備
 - 新庁舎建設に伴う現吉田庁舎の周辺土地利用を考慮した有効活用等
 - 安全安心な居住空間、歩行者・自転車空間の実現
 - 公共交通の利便性向上
 - 良好な住環境の維持・創出
 - JR吉田駅の交通結節点の機能の強化
 - 排水機能の改善
 - 中心部における賑わいの創出

- 地区固有の資源を活かしたまちづくり
 - 地区の伝統・文化の保存・活用
 - 特徴のあるまちなみ景観、うるおいのある河川景観の形成
 - 工業を支える環境整備
 - 営農環境維持への支援
- 地域・地区連携を支える骨格軸の強化
 - 道路の整備による地区の骨格形成
 - 長未着手の都市計画道路の見直しを含めた再検討と必要な道路の整備促進

見直しの視点

【社会情勢の変動
予想される変化】

- 公共交通や歩行空間等、移動の利便性向上
 - ・公共交通によるネットワークが形成され、都市機能が集約された拠点にアクセス可能なコンパクトシティを形成する。
 - ・駅周辺等の拠点内は、安全・安心な歩行空間の確保を図る。
 - ・越後線と弥彦線、国道116号と国道289号が交差する交通拠点としてのポテンシャルを活かす。

- 食の生産地としての拠点整備
 - ・卸売市場の移転に伴い新たな食の拠点が形成される。
 - ・ほ場整備等による営農条件の良好な生産環境を活かす。
- 市役所周辺の行政拠点機能の強化
 - ・市役所の立地や交通利便性を活かした計画的な土地利用を推進する。

これからの まちづくり 方針(案)

1. 市民に親しまれる拠点づくり

- 市役所周辺の行政拠点機能の強化
- 新たな賑わい交流拠点の形成

2. 交通軸が交差する立地を活かした人が集まりやすい地域づくり

- 国道116号、国道289号等における地域連携軸の強化
- 国道116号吉田バイパス整備に係る計画的な土地利用
- 交通結節点機能の強化
- 観光連携軸の強化

3. 住みたくなる魅力的な居住環境づくり

- 立地適正化計画によるまちなか居住促進
- 中心市街地の商店街の活性化
- 田園集落のゆとりある住環境の保全

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

- 長善館、香林堂等の歴史文化資源の保存と活用
- 市民の原風景である田園集落景観の保全
- 市民の健康づくりと憩いの場の充実

5. 安全・安心なまちづくり

- 市街地等の防災性向上
- 安全・安心な移動空間の確保

3. 地区別構想(案) (4) 吉田地区のまちづくりの方針

1. 市民に親しまれる拠点づくり

●市役所周辺の行政拠点機能の強化

・市役所周辺は、行政拠点として国道116号吉田バイパス整備に合わせて利便性が高く、市民に親しまれる新たな都市核としての拠点形成のため、公共施設及び生活利便施設の集積を図ります。

●新たな賑わい交流拠点の形成

・吉田南地区のみなみ親水公園や吉田南小学校等が立地するエリアでは、卸売市場の新築移転に加え、周辺の用地は商業施設及び住宅用地としての活用が想定されることから、賑わい交流拠点に位置付け適正な土地利用を促進します。

2. 交通軸が交差する立地を活かした人が集まりやすい地域づくり

●国道116号、国道289号等における地域連携軸の強化

・国道116号や国道116号吉田バイパス、国道289号及び主要地方道燕分水線などの主要な幹線道路により燕地区及び分水地区の主要な拠点へのアクセス性の向上を促進し、人流・物流の活性化、企業立地の促進、産業の振興を図ります。

●国道116号吉田バイパス整備に係る計画的な土地利用

・吉田バイパスは2車線計画で現道にも一定の交通が残るよう配慮されていることから、県立吉田病院周辺等の既成市街地の賑わいの確保に努めます。

・吉田バイパスはアクセスコントロールされた立体構造であり、沿道の優良農地を保全するとともに、バイパス交差部の周辺地域においては、無秩序な開発を抑制しつつ、バイパスのアクセス性を生かした良好な土地利用の誘導を図ります。

●交通結節点機能の強化

・JR越後線と弥彦線の交差する吉田駅は、鉄道とバスの接続や運行の改善、バリアフリー化などによる交通結節点の機能強化を検討します。

・安全・安心で快適に移動可能な歩行空間を形成し、駅、市役所、病院等の公共施設へのアクセス向上を図ることで、高齢者の外出機会の増加や市民の健康づくり等を促進します。

●観光連携軸の強化

・国道289号を弥彦村や三条市と連携する近隣観光連携軸として位置付けます。

●過度に自動車に依存しない都市交通の実現

・鉄道の利用拡大に向け、運行本数の改善や地域住民の移動実態、移動ニーズを踏まえた利便性の高い公共交通ネットワークの形成に向けた検討を進めます。

3. 地区別構想（案）

（4）吉田地区のまちづくりの方針

3. 住みたくなる魅力的な居住環境づくり

●立地適正化計画によるまちなか居住促進

- ・JR吉田駅周辺の都市機能の集積したエリアでは、潜在的な価値はあるものの空き家等により土地利用が進まない実態があることから、空き家跡地の活用支援やまちなか居住支援などインセンティブの付与により居住誘導を図ります。
- ・吉田浜首町や吉田下中野、吉田西太田など居住誘導区域で、かつ住居系用途地域内の比較的ゆとりある良好な居住環境が確保できる地域では、宅地分譲が進んでいることから、引き続きその立地性を生かした居住誘導を図ります。
- ・良好な交通環境、商業施設、行政施設、医療・福祉施設など既存の都市機能の集積を活かし、移住・定住の促進を図ります。
- ・JR吉田駅周辺及び国道116号沿道の日常的な買い物や生活に必要な施設が立地するエリアは、都市機能増進施設※の集積を図ります。

●中心市街地等の商店街の活性化

- ・吉田旭町や吉田上町、吉田中町、吉田下町をはじめとする商店街は、若者と協働で取り組む新たなイベント開催など商店街の活性化を支援します。また、空き家や空き店舗の活用の検討を支援します。

●田園集落のゆとりある住環境の保全

- ・吉田北地区及び、粟生津地区等に位置する集落と周辺農地は、公共交通の確保により地域の生活環境やコミュニティの維持を図ります。
- ・適切な開発の規制、誘導を行い、土地利用の混在や環境悪化のおそれのある土地利用を抑制し、周辺環境と調和した良好な居住環境の維持・形成を図ります。

※都市機能増進施設：医療施設、福祉施設、商業施設その他都市の居住者の共同の福祉や利便のため必要な施設

3. 地区別構想（案）

（4）吉田地区のまちづくりの方針

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

●長善館、香林堂等の歴史文化資源の保存と活用

- ・長善館史料館、香林堂（今井家住宅）、米納津隕石落下記念碑や吉田諏訪神社、吉田天満宮等、地区に点在する歴史的・文化的資源や景観の保存、継承の方策やそのための仕組みづくりを地区住民とともに検討します。
- ・吉田天満宮祭礼・吉田まつり等の地区に伝わる伝統やまつり、それらを継続するための組織などの活動を支援します。

●市民の原風景である田園集落景観の保全

- ・吉田北地区及び、粟生津地区等に位置する集落と周辺農地は、市民の原風景であり貴重な自然環境を将来にわたり継承する地域として、農地の環境・景観の保全を図ります。
- ・ほ場整備等により営農条件の良好な区画、施設が整備されてきた地域は、生産環境を維持するため、担い手の確保や大規模営農化を推進します。併せて、園芸作物のブランド化や生産性向上などを推進し、耕作放棄地の増加抑制に努めます。

●市民の健康づくりと憩いの場の充実

- ・緑の拠点として位置付けている、吉田ふれあい広場、みなみ親水公園をはじめとした広場、運動場などの適切な管理を図ります。また、オープンスペースの活用を考慮した身近な公園・緑地の管理や改良を地区住民とともに進めます。
- ・ビジョンよしだと吉田ふれあい広場は、健康増進施設や公園として多くの市民から親しまれており、民間管理者のノウハウ等を活用した一層のサービス向上を図っていきます。

5. 安全・安心なまちづくり

●市街地等の防災性向上

- ・狭隘道路の拡幅を伴う再編分譲に対する支援により、まちなかでの分譲を促進し、オープンスペースの確保や密集市街地の改善を図ります。
- ・浸水リスクの高い地域の避難誘導活動に資する防災拠点の機能充実と「地域防災計画」に沿った避難場所の指定と事前周知を図ります。
- ・洪水・土砂災害ハザードマップなど、避難に役立つ情報発信により、住民の防災意識の醸成を図ります。

●安全・安心な移動空間の確保

- ・事故のない安全・安心な歩行空間の確保のため、通学路を中心とした歩道の整備を進めます。
- ・バイパス等の整備促進により、生活道路への大型車等の交通量減少を図ります。

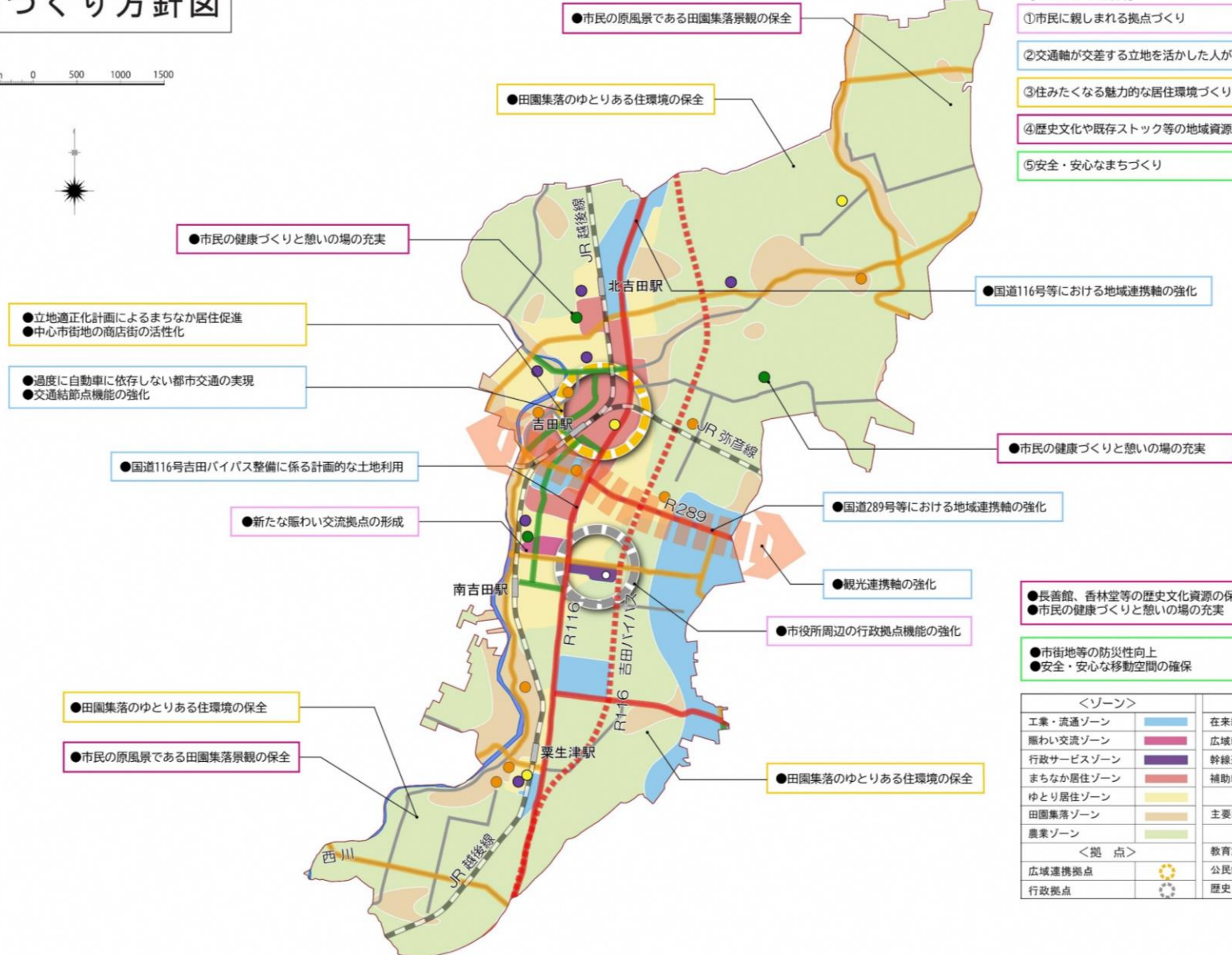
まちづくり方針図

500m 0 500 1000 1500



【まちづくりの方針】

- ①市民に親しまれる拠点づくり
- ②交通軸が交差する立地を活かした人が集まりやすい地域づくり
- ③住みたくなる魅力的な居住環境づくり
- ④歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり
- ⑤安全・安心なまちづくり



<ゾーン>		<鉄道・幹線道路>	
工業・流通ゾーン		在来線	
賑わい交流ゾーン		広域幹線道路	
行政サービスゾーン		幹線道路	
まちなか居住ゾーン		補助幹線道路	
ゆとり居住ゾーン		<河 川>	
田園集落ゾーン		主要河川	
農業ゾーン		<施設>	
<拠 点>		教育施設	
広域連携拠点		公民館	
行政拠点		歴史・文化	

3. 地区別構想(案)

3-4 分水地区

(1) 分水地区の概況

・総人口：13,046人(令和2年国勢調査)
 ・世帯数：4,486世帯(令和2年国勢調査)
 ・面積：39.61km²

- ・JR分水駅周辺及び国道116号沿いに市街地が形成され、地藏堂本町、諏訪町、分水新町等に商店街があります。
- ・産業の拠点として、分水小地区と分水北部地区に工業団地が整備されています。
- ・主要な道路沿い及び西川沿いに集落が形成され、国上山の麓や信濃川、西川沿いのエリアには農地が広がっています。
- ・大河津分水路は、信濃川上中流部の洪水を日本海にバイパスして下流域を洪水氾濫の危険性から守る重要な役割を担っており、桜並木の景観とあわせて地区のシンボルとなっています。
- ・国上山は、佐渡弥彦米山国定公園に指定されており、豊かな自然環境と良寛ゆかりの地である五合庵・乙子神社草庵や越後最古の寺である国上寺などの史跡が数多く残っています。
- ・分水おいらん道中、越後くがみ山酒吞童子行列、燕さくらマラソン大会等の観光誘客イベントに県内外から観光客が訪れています。
- ・笈ヶ島地内に継続的な水の安定供給のために、統合浄水場を建設中です。
- ・国道289号「八十里越」の開通により、観光分野等におけるさらなる広域的な地域間交流や連携の拡大が期待されます。

●人口

- ・人口が減少しており、少子高齢化が進んでいます。高齢化率は市内で最も高くなっています。
- ・人口減少率は市全体の減少率を上回ります。
- ・将来人口は10,327人(令和22年)と推計されます。

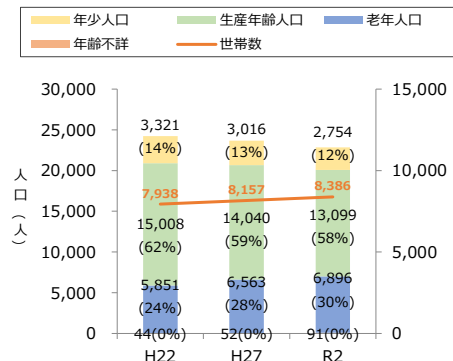


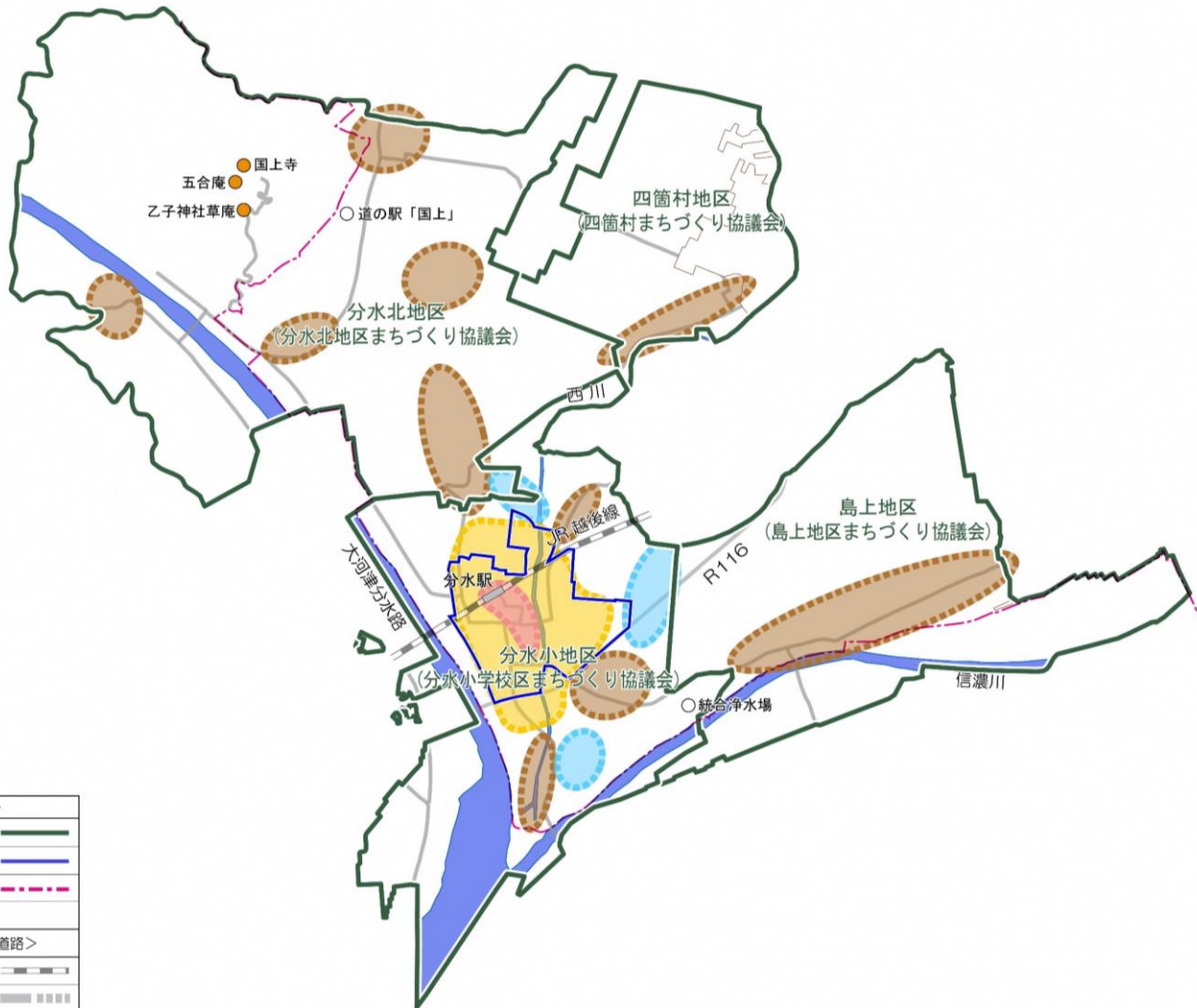
図. 人口、世帯数の推移
 (資料: 国勢調査)

●市民意向調査

- ・道路網の整備について、島上小学校区は満足度指数が他校区と比べて高い傾向があります。
- ・「商業地」に関する大切な取り組みについて、「幹線道路沿いへの大型店舗誘導」が比較的多い傾向があります。
- ・さらに磨き上げていくべき観光資源について、「大河津資料館や可動堰等」の回答が多い傾向があります。

現 況 図

500m 0 500 1000 1500



<エリア>		<区域>	
産業団地		まちづくり協議会	
商店街		居住誘導区域	
農地に囲まれた集落		都市計画区域	
分水駅周辺や主要な道路 沿い及び西川沿いの市街地			
<施設>		<鉄道・幹線道路>	
歴史・文化		在来線	
公園		国道・県道	
その他			

3. 地区別構想(案)

(2) 分水地区の将来像

豊かな自然と歴史に囲まれた観光のまち
～様々なふれあいがある、ゆとりある暮らし～

(3) 分水地区の課題

賑わいのある市街地の形成

- ・JR分水駅周辺の市街地の商店街は、空き店舗の増加等により活力が低下しており、空き家・空き地等の活用による賑わい向上が必要です。

拠点の活用による魅力増進

- ・リニューアルした道の駅「国上」を中心とした、アウトドアを楽しむ環境や、周辺の観光地との連携、トレッキングやサイクリング等のアクティビティを体験する拠点として魅力向上が必要です。

移動しやすい交通環境の形成

- ・駅周辺や幹線道路沿いの都市施設等を快適に利用することができるように、歩行空間のバリアフリー化等が求められています。
- ・燕地区や吉田地区との連携を強化し、生活環境の利便性を向上するための公共交通ネットワークの強化が必要です。
- ・道の駅「国上」を中心とした周辺の観光増進、利便性向上のためアクセス交通の拡充が必要です。

安全・安心な居住環境の充実

- ・国上山の麓付近に存在する土砂災害の発生の恐れのある地区における防災対策が必要です。また、大河津分水路の洪水浸水想定区域に含まれるため、水害への対策が必要です。
- ・木造建築物が密集している地域等、地震や火災に強い都市基盤の構築が必要です。

地域資源の保全と活用

- ・佐渡弥彦米山国定公園に指定される国上山の優れた景観や市街地を取り囲む田園風景、大河津分水路と桜並木の環境・景観を保全するとともに、これらの資源を活用したさらなる交流の場を形成することが必要です。
- ・主要地方道燕地藏堂線沿いの集落や国上山裾野に広がる田園集落と周辺農地は、景観要素、観光資源として重要な資源であり、田園環境の管理・保全とまちづくりへの活用が必要です。
- ・国上山、五合庵、乙子神社草庵など良寛ゆかりの歴史・文化資源が多数存在しており、これらは地区の大きな魅力であるため、適切に維持・保全していくとともに、まちづくりに活かしていくことが重要です。

3. 地区別構想(案)

(4) 分水地区のまちづくりの方針

○現都市計画マスタープランで挙げられている地区別の実現化の取り組みに対し、現計画策定時からの変化をふまえ、次期計画における地区のまちづくり方針(案)を検討

これまでの方向性

【実現のための取り組み】

- 誰もが快適で安全安心に暮らせる生活環境整備
 - 安全安心な歩行者・自転車空間の確保
 - 下水道の整備促進
 - 公共交通の利便性向上
- 地区固有の資源を活かしたまちづくり
 - 地区の歴史、文化の継承
 - 観光ルートの形成
 - 良好な集落地景観、河川景観の形成・寺社の緑地の保全
 - 大河津分水路の自然環境の保全、河川親水空間の整備

- 人の集まるスポーツ・レクリエーションの拠点整備
- 道の駅「国上」の交流拠点機能の充実
- 国上山周辺の自然環境の保全、活用
- 寺社の緑地の保全
- 農業の生産性の向上

- 地域・地区連携を支える骨格軸の強化
 - 長期未着手の都市計画道路の見直しを含めた再検討と必要な道路の整備促進
 - 道路の整備による地区の骨格形成
 - 産業を支える移動環境の整備

見直しの視点

【社会情勢の変動
予想される変化】

- 公共交通や歩行空間等、移動の利便性向上
 - ・公共交通によるネットワークが形成され、都市機能が集約された拠点にアクセス可能なコンパクトシティを形成する。
 - ・駅周辺等の拠点内は、安全・安心な歩行空間の確保を図る。

- 道の駅「国上」のリニューアル
 - ・道の駅「国上」を中心に、自然と親しむキャンプ等のレジャー機能の強化を検討する。

これからのまちづくり方針(案)

1. 市民に親しまれる拠点づくり

- 国上山周辺の観光エリアの強化
- 大河津分水路の観光資源としての活用

2. 交通軸が交差する立地を活かした人が集まりやすい地域づくり

- 国道116号や主要幹線道路における地域連携軸の強化
- 交通結節点機能の強化
- 観光連携軸の強化
- 過度に自動車に依存しない都市交通の実現

3. 住みたく魅力的な居住環境づくり

- 立地適正化計画によるまちなか居住促進
- 中心市街地等の商店街の活性化
- 田園集落のゆとりある住環境の保全

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

- 良寛ゆかりの地、国上山周辺の魅力を活かした交流・応援(燕)人口の拡大
- 歴史文化資源の保全と活用
- 市民の健康づくりと憩いの場の充実

5. 安全・安心なまちづくり

- 市街地等の防災性向上
- 安全・安心な移動空間の確保
- 土砂災害の安全対策、治水対策の推進

3. 地区別構想（案）

（4）分水地区のまちづくりの方針

1. 市民に親しまれる拠点づくり

●国上山周辺の観光エリアの強化

・国上山周辺は、アウトドア・レジャーと歴史・文化に触れることができる観光エリアとして、道の駅国上でのイベント開催等、観光拠点機能の強化を図ります。

●大河津分水路の観光資源としての活用

・通水100周年を迎えた大河津分水路周辺は、先人たちの努力により生まれた大河津分水路建設の偉業と、根底にある私塾長善館の教えを後世に伝え、市民の郷土愛・シビックプライドの醸成につなげるとともに、大河津分水路の歴史文化、インフラ資産等の観光資源としての活用を図ります。

・大河津分水路の桜は、通水当時の桜並木の復活を目指し、市民や市内の団体による植樹や管理を支援するとともに、市外の人材との交流による交流・応援（燕）人口の増加を促進します。

2. 交通軸を活かした観光・交流の空間づくり

●国道116号や主要幹線道路における地域連携軸の強化

・国道116号吉田バイパスや主要地方道燕地藏堂線などの主要な幹線道路の整備により燕地区及び吉田地区、主要な拠点へのアクセス性の向上を促進し、人流・物流の活性化、企業立地の促進、産業の振興を図ります。

●交通結節点機能の強化

・JR分水駅は、バスの運行改善や乗り換え環境の向上、バリアフリー化などによる交通結節点機能の強化を図ります。また、周辺の歩行空間の整備等を図ります。

●観光連携軸の強化

・主要地方道新潟寺泊線を弥彦村や長岡市、新潟市と連携する近隣観光連携軸として位置付けます。

・国上山や大河津分水路の観光資源と長岡市寺泊、弥彦村、新潟市西蒲区岩室等の近隣観光地との連携強化を促進します。

●過度に自動車に依存しない都市交通の実現

・鉄道の利用拡大に向け、運行本数の改善や地域住民の移動実態、移動ニーズを踏まえた利便性の高い公共交通ネットワークの形成に向けた検討を進めます。

3. 地区別構想（案）

（4）分水地区のまちづくりの方針

3. 住みたくなる魅力的な居住環境づくり

●立地適正化計画によるまちなか居住促進

- ・JR分水駅周辺の都市機能の集積したエリアでは、空き家跡地の活用支援やまちなか居住支援などインセンティブの付与により居住誘導を図ります。
- ・分水桜町など居住誘導区域で、かつ住居系用途地域内の比較的ゆとりある良好な居住環境が確保できる地域では、宅地分譲が進んでいることから、引き続きその立地性を生かした居住誘導を図ります。
- ・JR分水駅周辺から国道116号沿道までの日常的な買い物や生活に必要な施設が立地するエリアは、都市機能増進施設※の集積を図ります。

●中心市街地等の商店街の活性化

- ・地藏堂本町、諏訪町、分水新町をはじめとする商店街は、商店街関係者が協働で取り組む新たなイベント開催など商店街の活性化を支援します。また、空き家や空き店舗の活用の検討を支援します。

●田園集落のゆとりある住環境の保全

- ・主要地方道燕地蔵堂線沿いの横田、熊森の集落や、国上山裾野に広がる農地と田園集落は、市民の原風景であり貴重な自然環境を将来にわたり継承する地域として、農地の環境・景観の保全を図ります。
- ・適切な開発の規制、誘導を行い、土地利用の混在や環境悪化のおそれのある土地利用を抑制し、周辺環境と調和した良好な居住環境の維持・形成を図ります。

※都市機能増進施設：医療施設、福祉施設、商業施設その他都市の居住者の共同の福祉や利便のため必要な施設

3. 地区別構想(案) (4) 分水地区のまちづくりの方針

4. 歴史文化や既存ストック等の地域資源を活かした魅力づくり

● 良寛ゆかりの地、国上山周辺の魅力を活かした交流・応援(燕)人口の拡大

- ・燕市分水良寛史料館、国上寺、五合庵、乙子神社草庵、タぐれの岡、道の駅国上など良寛ゆかりの地として、近隣市町村と連携した観光ネットワークを形成します。
- ・地区に点在する地域資源を活かして、交流・応援(燕)人口の増加を目指すため、地域、企業と連携し受入体制の強化を推進します。

● 歴史文化資源の保全と活用

- ・本町屋台や薬医門、願王閣等、地区に点在する歴史的・文化的資源や景観の保存、継承の方策やそのための仕組みづくりを地区住民とともに検討します。
- ・分水おいらん道中や越後くがみ山酒呑童子行列、分水まつり等の地区に伝わる伝統やまつり、それらを継続するための組織などの活動を支援します。

● 市民の健康づくりと憩いの場の充実

- ・緑の拠点として位置付ける、大河津分水さくら公園をはじめとした広場、運動場などの適切な管理を図ります。また、オープンスペースの活用を考慮した身近な公園・緑地の管理や改良を地区住民とともに進めます。

5. 安全・安心なまちづくり

● 市街地等の防災性向上

- ・オープンスペースの確保や狭隘道路の拡幅を伴う再編分譲に対する支援により、まちなかでの分譲を促進し、密集市街地の改善を図ります。

● 安全・安心な移動空間の確保

- ・事故のない安全・安心な歩行空間の確保のため、通学路を中心とした歩道の整備を進めます。

● 土砂災害の安全対策、治水対策の推進

- ・土砂災害防止施設の整備促進や森林の適正管理の推進等により、土砂災害に対する安全度の向上を図ります。
- ・大河津分水路の両岸に指定された家屋倒壊等氾濫想定区域や土砂災害警戒(特別)区域等の水平避難が必要な地区については、早めに避難の判断が必要なことから、マイ・タイムラインの作成支援や、防災訓練等をととして地域の防災対策の推進を図ります。
- ・洪水・土砂災害ハザードマップなど、避難に役立つ情報発信により、住民の防災意識の醸成を図ります。

(4) 分水地区のまちづくりの方針

まちづくり方針図

